

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300420		
法人名	株式会社医療給食		
事業所名	グループホームオアシス大河 あじさい		
所在地	愛知県名古屋市中切町6丁目13番地		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本社が医療給食であり、個人個人の食事形態で対応出来る。おやつは毎日手作り(利用者も出来る限り参加)のものを提供している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2390300420-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>感染症問題が続いていることで利用者の外出の機会が限られた範囲となっているが、当ホームは、リビングをはじめ共用空間が広いことや利用者がホーム内を自由に移動できることもあり、利用者が毎日の生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられていることが当ホームの特徴でもある。関連事業所で行われている毎日のおやつ作りの取り組みについては、当ホームでも同じように行われており、利用者もできることに参加しながら楽しみの機会につなげている。食事についても運営母体が高齢者の食事を提供する専門業者でもあることで、利用者の身体状態や健康状態等に合わせた食事の提供が行われている。また、当ホームについても2か国語で申し送りを行う取り組みが行われており、職員間で情報交換を行いながら利用者の介護計画や支援内容等の共有につなげている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はなかなか根づいていないが、日頃から「笑顔」と「思いやり」は言葉に出して伝えている。	「笑顔」と「思いやり」を職員の支援の基本に考えながら、日常の支援を通じて職員への働きかけが行われている。職員にはわかりやすい言葉で伝えることで、全職員に理念として実践する機会につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	出来るだけ利用者様を個別で散歩にお連れし、近隣を歩くようにしている。 出来る限り、利用者様と個別で散歩へ行き、近隣を歩行します。その際、近隣の方とすれ違うとスタッフと共に挨拶を交わします。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が中断しており、ボランティアの方の訪問も中断している状況である。今後に向けて関連事業所とも連携した地域の方との交流に関する検討等も行われている段階である。	地域の方との交流が中断している状況でもあるため、今後の感染症の状況や関連事業所とも連携しながら、ボランティアの方の受け入れ等、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍であり、地域との交流は全く出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、運営推進会議が書面上となっており、利用者様からの意見をもとに行っている状態である。	会議については、会議を継続することができるように出席者を限定して行われている。ホームの開設時から感染症問題が続いていることもあり、外部の方の参加の案内等を控えている状況が続いている。	今後に向けて、感染症の状況もみながら、関連事業所と連携した会議の開催も検討しながら、外部の方の参加が得られるような取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所に行った時には、いきいき支援センターにも顔を出し、話しをするようにしている。	市担当部署との情報交換等については、関連事業所とも連携しながら行われており、当ホームでも生活保護の方を通じた連携等が行われている。また、地域包括支援センターとも随時の情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々具体的な行為の確認をし、指導している。 日々行為が間違っていないか、スタッフ同志で共有し確認しています。 ミーティング等でプリントを見て、話し合ったりしている。	身体拘束を行わないように、2階のフロアについては出入り口に施錠を行わない等、可能な限り圧迫感を感じないような配慮も行われている。また、言葉による拘束等、職員への注意喚起の取り組み等、職員間での振り返りの取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃から虐待にあたる行為を頭の中で常に意識し、気をつけている。夜間帯はユニット内職員がひとりになる為、ユニットの出入り口を開放し、巡回している。 日々、スピーチロック、フィジカルロック、ドラッグロックが行われていないか、とても注意しております。 現場に管理者が入ったり、職員同士が意識して、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員の理解は難しい。現在、成年後見の申立てをしている利用者があり、学ぶ良い機会であると思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は契約書と重要事項説明書を元に細かく説明し、不明な点がないかを確認する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時にご家族と顔を合わせ、ご意見等をお聞きするよう努めている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、家族との面会を可能にする等、現状で可能な範囲での交流が行われている。家族からの要望等については管理者が把握し、運営法人の幹部職員に報告して対応している。また、ホーム便りの作成も行われている。	ホームの開設時から感染症問題が続いていることで、家族との交流が困難な状況が続いている。今後の状況もみながら、可能な範囲で家族との交流が深まることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの声は、管理者から代表者に伝えるようにしている。 適宜、ミーティングを開き、意見交換をし、日々の業務にあたっている。	毎日の朝礼の時間を通じた意見交換等の機会をつくっており、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、申し送りを二か国語で行う等、全職員が情報を共有し、意見等を出しやすい環境づくりも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が思いを伝えやすい雰囲気大切に、リーダーに伝え、リーダーから管理者、管理者から代表者に伝えている。 企業理念の実施、利用者様へ良いサービスが提供できるよう、代表者、管理者は、現場の職員の意見を聞き、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の職員が常にリーダーや管理者に聞き、その都度、指導をすることで向上できるようにしている。 研修、トレーニングの紹介、案内をし、その日にちを確保し、職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍であり、相互訪問は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、ご本人、ご家族の意向を確認し、計画書に反映させて、日常の支援を行っている。入所する経緯や本人の主訴や周りの意見を聞いたり、話し合うことで本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に、これまでの経過や今後心配となることを聞きとり、入居後も電話にて連絡をとりあい、随時対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にこれまでの生活や問題点の聞き取りを行い、把握に努めている。アセスメントシート等で情報を知り、把握に努めています。これまでの生活や性格を知り、ご本人、その周りの方との話し合いで、今後の対応を考えていっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	これまで自分で出来ていた事を継続して行っていただけよう支援している。出来る事は本人様にさせていただき、危険な事は見守りしたり、お手伝いしている。家事、手伝い等を出来る方にしていただき、機能訓練に繋げる。そうすることで、職員と本人が支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを大切にしながら、何かあったら家族の意向を確認するようにしている。本人だけでなく、ご家族の意向を尊重し、本人の暮らしが本人にとって、より良いものとなるよう、共に支え合っていく姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍である為、なかなか家族以外の方との面会や外出は出来ない。努めたいがコロナ禍である為、家族以外との面会や外出は行えてないです。施設を利用していただいている本人への感謝の気持ちを忘れず、本人のより良い生活の為、気持ちの良い関係づくりをしていく。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には携帯電話を活用しながら交流を継続する等、現状で可能な支援が行われている。また、身内の方の結婚式に出かける等、現状で可能な範囲で家族との外出の機会もつづられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内で利用者様同士がコミュニケーションをとり合えるよう支援をしている。スタッフも加わり、とり合える様努めています。ご本人同士の相性や性格等を考え、関わり合いを持ってもらえるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	何か手伝えることがあったら、いつでも声を掛けて下さるように伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、思いを傾聴するよう心掛けている。日々、傾聴しています。又、あまり話されない方はこちらから声かけしたり、表情でうかがっています。本人の思い、希望を聞きながら、環境づくりをしている。	日常的な申し送りの時間を通じて、職員間で利用者に関する意向等の把握と共有が行われている。また、申し送りの時間を通じたカンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人や家族から情報を得て、日々のコミュニケーションの中でも話題にするように心掛けている。アセスメントシート、又、ご家族からの情報などで、本人様との会話の中でも心掛けています。本人と関係の深い方からの意見、情報をもとに(本人含む)暮らしのお手伝いをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	様子を見たり、コミュニケーションの中で、現状を把握するよう努めている。日々、利用者様を傾聴しており、何がいつもと変化はないかと気にかけています。一日をとおして、できることをしていただきながら、ご本人と接している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向を確認し、ユニットスタッフ、看護師からの意見を聞き取り作成している。利用者様、ご家族、看護師、ユニットスタッフから意見を聞き、作成しています。ご本人を取り巻く多くの声を反映して、介護計画を作成している。	介護計画については、利用者の身体状態等にも合わせて、現状、3か月での見直しが行われている。支援内容を職員間で日常的に共有するように管理者や計画作成担当者からの働きかけも行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録、排泄記録、入浴記録を記入し、確認している。本人様、ご家族の意見も考量し、その時の本人様にいいケアが出来る様、考えています。その日にあったことを記録し、情報共有にあたり、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族が必要としていることを考慮しながらサービスの提案をしている。施設で、できることはし、グループ内施設に協力してもらい、多機能化に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍でもあり、なかなか地域資源を活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回の内科往診(全員)、皮膚科、眼科、歯科往診(必要時)他、整形外科や耳鼻科、必要があれば、病院受診をしています。 ご本人の状態を医師、薬局、看護職、介護職等が連携を密にし、把握し、説明をし、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医による医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については職員による支援も行われており、柔軟な対応につなげている。また、看護師による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝礼時、申し送りで伝えたり、随時、内線で連絡を取りあうようにしている。 月一回の往診、定期受診が適切に受けられる準備や、その結果を踏まえ、適切な介護を提供できるよう、看護職との連携をしっかりとする。している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを送り、情報提供している。 事務所で、ご家族、病院等とやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入院時に説明をし、意思確認をしている。 ご家族、ご本人と職員が話し合い、今後について、どうケアをしていくのか周知し、実践している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、職員間で連携した支援が行われている。運営法人の関連事業所に特養があることで、特養への移行も可能であり、利用者の段階に合わせた家族との話し合いにつなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	知識はあっても、日頃の訓練が出来ていない為、実践力は身につけていないかもしれない。 定期的に行っていない為、身に付いていない。いざという時、不安がある。 もしものときに救急要請の仕方の説明や話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、訓練を行っている。 消防隊が避難の方法を教えてくれ、それを職員間で周知するようにしている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設の障害者支援事業所と連携した取り組みも行われている。また、備蓄品については、当ホーム及び運営法人の本部に確保されている。	感染症問題が続いていることで、地域の方との協力関係等の取り組みが困難になっていることもあるため、今後の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重するような言葉かけや対応を心掛けている。 心掛けています。嬉しそうな表情をされたりします。本人の気持ちに寄り添いながら、声を聞いたり、訴えに対応している。	職員には「笑顔」で利用者に接することを伝えることや分かりやすい言葉で職員への指導等を行う取り組みが行われている。また、日常の申し送り等の時間を通じて、利用者への接し方や言葉遣い等の注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつ時の飲み物はメニューを見せて、毎日選んでいただくようにしている。 周りとの調和を考えたり、意思表示し易い環境で生活していただけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に沿えるよう心掛け、各職員にも伝えるようにしている。 本人のペースに合わせて、一日の流れに沿ってお声がけ、誘導をし、その人らしい生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服は本人に選んでいただく。 着替えるときに、ご本人に選んでいただいたり、上と下の色を考えたりして、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は母体の会社が調理した物を温めるだけになっているが、おやつ作りや食事のレクリエーションを取り入れている。 音楽をかけている。好きな物や、食べられない物など、省いて召し上がっている。食事は本社で用意している。食器洗いのお手伝いをさせていただいている。	食事は、運営法人から提供が行われており、利用者の様々な身体状態に合わせた食事の提供が行われている。運営法人と連携した特別食の提供も行われている。また、ホームでおやつ作りを行う取り組みが行われており、利用者もできることも参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活記録の中で食事摂取量、水分摂取量を記録している。食事形態は、必要時変更している。 看護師、かかりつけ医と連携し、水分量や栄養を考え、栄養士が本社にあり、バランスカロリーを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行う。介助が必要な部分は介助している。 利用者様に合わせて、見守り、声かけ、お手伝い、介助をしています。 ご本人のできる部分をしていただく。口腔ケアも、その人の能力に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	リハビリパンツやパッドを使用している方も出来る限りトイレで排泄が出来るよう誘導している。個々にリズムを付けてトイレ誘導をしています。自立してご自身のペースで行われる方はプライバシーがある為、そっと確認しています。決まった時間の間隔でトイレ誘導やお声掛けすることで、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄記録を残し、申し送りノート等にも細かな記録を残すことで、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄に関する医療面での連携も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量や運動の促しをし、排便頻度、間隔を把握し、対応している。 水分補給の促し、運動への取り組み等、又、看護師、薬局さんと連携をし、便秘の予防と対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	9人の利用者様に対してひとつのお風呂で、週2回ずつ入浴していただくため、なかなかひとりひとりの希望に合わせてということは難しいが、拒否があれば、他の方と入れ替える。その日の体調や気分に合わせて、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。 又、入浴剤を入れ、気分転換になれる方もいます。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも随時の声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。利用者の身体状態にも合わせた入浴の支援や季節等にも合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室にはひとりずつになっており、自由に休息されている。室内に温湿度計を設置し、快適に過ごしていただけるように心掛けている。 その人一人ひとりの生活リズムをイメージし、日中と夜間に合わせた暮らしが出来るよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の管理や介助を行っている。ご本人が不安に感じている事があれば、往診時に主治医や薬剤師に相談するようにしている。 ご本人やスタッフ間で、薬の取り扱いについて説明等、適宜なされ、理解をしながら、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	作品作り、カラオケ、散歩等、日々のレクリエーションにとり入れている。 出来る限りしています。拒否があっても、いざ参加すると楽しかったと言われる。 気分転換にお散歩、役割、機能訓練や共に支え合う関係づくりとして、家事、手伝いをさせていただき、見守りをさせていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、外出レクリエーションは実施できていないが、近隣への散歩には、個別で出かけるようにしている。 コロナ禍であるが、気分転換に散歩をしたり、催し物や、外出レクに参加していただいている。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの周辺を散歩を行う時間をつくる等、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。また、可能な範囲で季節等にも合わせた外出行事の取り組みが行われている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の持ち込みは、原則禁止にしている。ご本人の経済面を共に考え、共に大切さを理解していく働きかけをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話がなく、自由に電話をすることは難しい。携帯電話を所持している方は自由にかけている。手紙は自由に書くことができる。便せんや封筒を購入したり、投函の支援はしている。大切な家族の方などに気軽にお電話をしていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	浴室は一般の家庭の浴室と同じようなつくりになっている。フロアには季節ごとの装飾をするようにしている。 トイレは毎日掃除をし、汚れたら掃除をしています。(共用の為)季節を感じられる様に季節に合った飾りをしております。	ホーム内は広く、ホーム内の移動も自由に行うことができ、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、リビングの壁面等に利用者の作品等の掲示を行う等、アットホームな雰囲気が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアでの座席に配慮はしている。 居室で一人の時間を過ごしていただいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、ご本人が使用していた物や好みの物を持って来ていただくよう説明している。 お部屋に家族様の写真を置いたりして工夫している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内にクローゼットの設置が行われていることで、居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	常に職員が見守り、必要に応じて介助をしている。転倒のないよう、安全に考慮した環境作りをしている。 手摺の近くに物を置かないこと、車椅子は通れるような環境づくり等、基本的なことをしている。		